



高雄日本人学校 帰国報告

鹿追町立鹿追中学校
教諭 佐藤 淳一

1. 台湾について

台湾は島の面積が 35,915 平方 km。日本の九州より少し小さく、北海道の半分くらいの大きさです。北海道の人口は 540 万人程度だそうですが、台湾にはなんと 2300 万もの人々が暮らしています。つまり、北海道の 1/2 の土地に 4 倍の人たちが住んでいるという計算になります…。

人口密度もバングラディッシュに次ぎ 643 人/km² 世界で 2 位！約 66 人/km² の北海道と比べると約 10 倍の人口密度です！

台湾には日本人学校が 3 校（台北・台中・高雄）あり、私の赴任していた高雄市が一番南に位置しています。亜熱帯気候の台北に比べて冬の時期の雨が少ない『熱帯モンスーン気候』、ヤシやバナナの木をどこでも見ることができると南国ムードが漂う港町と聞いていたので、「荷物になる冬服は日本に置いていこう」という安易な考えのもと、赴任後にユニクロで長袖をすぐに購入してしまいました。石でできた家の作りのせいでしょうか？冬の夜はかなり寒く感じます。もちろんス



トープなどはありません。台湾第 2 の都市で、歴史ある港町です。日本や中国からの観光客も多く新鮮な魚介類や屋台が立ち並ぶ夜市が有名で、縁日でワクワクするような感覚を毎日感じることができました。また、日常の買い物として利用していた市場も素敵です。生きている食材や死んでしまったばかり？の食材がうようよしており、私にとっては夢の空間でした。見たことのないエビ、カニ、スッポン、蛙にブタの顔、鶏の裸になったものなどなどがずらり…。

台湾での生活で忘れられない飲食物をと言えば、まずは台湾ビールを…。程よい酸味があり濃い味の台湾料理にぴったりなのです。「ピ〜ジョ〜」というビールを表す北京語は台湾に来て初日に覚えた言葉の一つです。また、高雄市は「牛肉麵」という牛骨スープをベースにしたうどんが有名なのですが、これがまた絶品なのです。現地の友人が進める店を食べ歩いた休日が懐かしく思い出されます。



そして、テレビの紹介などで必ずと言ってよいほど登場する臭豆腐…。観光スポットである夜市などでは日本からやってきた若者たちがその臭さに盛り上がりながらチャレンジしている光景をよく見たものでした。これが、癖になるおいしさなのです。台湾ビールとの相性も抜群です。ぜひ台湾を訪れたときにはご賞味いただきたいものです。



來台当初の春先はどんよりとした曇天が続いておりましたが、一週間ほどたったある日突如として晴れ渡った日の高雄の青空に感動したのを覚えています。正直に言うと、街中の空気は決してして良いとは言えないのですが…。国民の足とであるスクーターの膨大な台数…その排気ガスに加え、実際大陸から流れてくるpm2.5の影響があるといわれており、体育の授業は数値によって外での活動が制限される時期もありました。

北部に比べると降雨量が少ない高雄ですが、突如として襲ってくるスコールには「バケツをひっくり返したような…」という表現がしっくりきます。台風も多く7～9月には毎年学校が必ず閉鎖になりました。台湾では『停课：ていんか～』という文字がテレビに映ると「すべてのお仕事」が、『停班：ていんばん～』が映ると「学校が」お休みになるというシステムです。年に何度かある『停课・停班』を子どものみならず大人たちも心待ちにしているとか…。ただし、このシステム前日の夜10時頃までには判断を決定し、すべてのテレビチャンネルで流すため、次の日予報よりずいぶん勢力の弱まった台風がやってきて拍子抜け…「みなさんお仕事行かなくても良いのかな？」と思うこともあったりします。



日本統治という時代背景をもち、85歳以上の方は多くが日本語教育を受けている台湾。人々はとても親日的で親切です。買い物に行くと日本語が通じることも珍しいことではないですし、町の看板などでも日本語の表記をよく目にします。時々びっくりするような日本語にも出くわします。日本料理屋も数多く、独自に進化したカラフルなお寿司などを目にする嬉しくなってしまう。



台湾と日本は非常に距離的にも近く、歴史的にも関わりある隣国でありながら、赴任前の私は戦時中、「祖母が暮らしていた場所であり、現在もなお国際社会から国家として認められていない国」という漠然とした印象しか持ち合わせていませんでした。いざ、台湾に来て、家族と暮らす中で出会った人々といえば、不思議なくらい親日的で親切な人々ばかり。また、現在の日本のことに興味関心の高い若者たちとの出会いに驚きの日々…。ファッションなども、どこか日本を意識しているような感じを受けます。

カップルのパールックや友達同士同じ格好が多いのは国民性でしょうか？そういえば、若者の髪型は独特のものがあります。カラフルな洗髪と刈り上げが流行っているようです。また成人男性は、かなり短い角刈りに緩いそり込みを入れる『山本頭』と呼ばれる謎の髪型が流行っているようでした。噂によると、『山本五十六』にちなんでの命名であるとか…。

さて、少し話が横道にそれました。私の想像を超えていたのは、統治下にあった時期の日本の教育や日本人の教えを懐かしみ、その面影を追い求めている現在の台湾人々と日本統治下において台湾の人々の生活改善に尽力し、今なお愛されてやまない日本人の存在があったことです。日本統治語の国民党支配、中国との微妙な関係、近年の民主化といった歴史をもちながらも私たち日本人ですら忘れかけているものを大切に思ってくれている人々が台湾にはいたのです。

元台湾総統でいらっしゃる李登輝氏の後援会に出席する機会があり日本精神の尊さについてお話を伺うことができたことも貴重な経験であったと思われされます。



当たり前ですが、人口密度が濃いので街中はどこに行っても人がたくさん…。先述したとおり人々の移動手段は、主にスクーター。マスク姿に、上着を後ろ前に着て風を切るのが台湾流です。「後ろ前」というのはジャージでいうと背中側にチャックがある状態でわざと着こなすということです。友人の台湾人に言わせると空気の抵抗を受けずあたたかく感じると主張するのですが…。私が通勤手段として利用したのは、みなさんご存知台湾メーカのビックスクーター KYMCO の中古 150CC。(誰も知りませんね。実は台湾には自動車メーカーも存在するのです。)スタイリッシュで精悍なビックボディに、ハイパワーエンジンを搭載し、あらゆるシーンにフィットするこのハイユティリティパートナーは赴任後の 4 月に片言の英語で値切りまくって 35,000NT\$ で購入。(市場でも、デパートでも値段交渉は当たり前です!)その後修理に出すこと数知れず。一度は 1 km ほどある大きな橋の真ん中でエンスト。鼻水を垂らしながら押しきりました。

日本の交通法規と比較すると「点数が何点あっても足りない」くらい交通ルールを守る意識は緩い? とい

か…。最初は啞然としましたが、スクーター 4 人乗りのファミリー、信号無視をするタクシーにも慣れてくるから不思議なものです。(赤信号の右折は暗黙の了解のようで…)大きなラブラドルレトリバーが 50 cc のバイクの足元に乗っていることも…。通勤時間帯に事故を目撃することも多かったと記憶しています。ひやひやするのは 2~3 歳くらいの幼児がお母さんの後ろに小さな手の握力と腕の力だけでしがみついている光景を目の当たりにすることです。「お母さん、頼むからスピード出さないで…」思わずに目をつぶりたくなります。ある日曜日、訪れた病院の訪れた医大にはロビーまでずらりと患者さんのベットがあふれかえって手や足には包帯がぐるぐる…。(その脇ではお弁当を食べているおばさんが…)さすがにお写真パチリというわけにはいかなかったのですが、聞くと患者さんの多くが交通事故でした。



2. 高雄日本人学校の特徴

勤務校であった高雄日本人学校的话题を少々…

赴任 1 年目の平成 25 年度は、小学部児童 91 名・中学部生徒 26 名が在籍しておりました。今年度私は中学部 1 年生の担任を受け持っておりましたが 11 名中、ご両親のどちらかが台湾人である生徒が 6 名おりました。独立校舎で小学部の児童の大きな歌声や笑い声がこだまするにぎやかな雰囲気は…新鮮そのものでした。

中学部生徒は日本と比べると部活動等の放課後の活動時間が少ないうに、帰宅後に気軽に外出できるという環境ではないので、『学校で友人に会う』ことを楽しみに登校する生徒が多い印象を受けます。日本の中学生と比べると「親と過ごす時間」や「会話をする時間」は一概には言えませんが、海外の方が多い気がします。

新年度派遣教員で新入学の担任を持つ場合、ほとんど準備期間がないまま入学式を迎えることになるのですが、まず驚いたことといえば、それは女子の制服が…AKB の衣装みたいで「萌え~!」なことです。

いわゆる制服というものは無いのですが、『制服に準ずる格好』ということで男子はスーツ or プレザー、女子は「萌え~!」が決まりました。指定ジャージもありません。普段は私服登校です。

残念なことこの独立校舎は築 40 年。老朽化や間借りしている経費





の問題から26年度7月に1600人規模の現地小学校(高雄市中正國小学校)への校舎移転(校舎の一部を間借り)することとなりました。引越っ越し作業や、現地校との交渉、移転後の安全面にかかわる保護者の理解等、諸問題が山積しておりましたが職員のチームワークで一つひとつ新しいものを作り上げる喜びを感じることができたことも教員として大きな財産となりました。また、移転後は現地小学校の生徒へ「日本語指導」を行うなど、多忙な中有意義な時間を過ごすことができた振り返ります。片言の中国語で授業をする緊張感が忘れられません。



児童は多くがスクールバスを利用して登校します。(中学生は自力登校の生徒がほとんどです。)ド派手なピンクバスに乗ってエキサイティングな一日の学校生活が始まるのです。職員は現地スタッフや講師の先生を含めて約20名。毎朝7:30ごろに職員全員で生徒を迎えます。(帰りも写真同様にハイタッチで送り出します)今まで、小学部の先生の授業を拝見する機会が多くなかった私にとって、非常に勉強になりました。もちろん出身都道府県も様々です。北～南の方言+中国語が飛び交う職員室の中、毎日刺激を受けながら勤務をしておりました。



ショートトラックの運動場があるだけで体育館は無い環境ですので、「体力の向上・運動不足解消」は学校としても大きな課題です。体育の授業は週に3回のうち2回が水泳です。とにかく河童のごとく泳げます。そういえば、春先の全校プール掃除の前にプールいってみると、カラフルなグッピーとオタマジャクシがたくさん泳いでおりました…。

ボウフラ対策だと聞き納得…。

平成26年度に中学部2・3年生で訪れた4泊5日のタイへの修学旅行も非常に印象に残っています。

出発直前に『インラック首相および9名の閣僚が違憲判決で失職』というニュースが流れ、ヒヤリ。内閣総辞職にはならず、タクシン派政権は存続。反政府デモ隊と同調する最大野党・民主党も再度選挙をボイコットする可能性を否定せず、政情の不安定な中関係機関との連携を取りつつ、第4案まで変更が可能なるよう準備に準備を重ね、何とか無事に執り行うことができました。

スラム地区にある現地中学校との交流を行い、文化交流を行ったり、バンコク市街地の自主研修を行ったりと、生徒にとってはきっと一生の思い出に残ったことでしょう。

また、台湾の現地中学校との交流にも力を入れていたのですが、台湾の小中学校にはなんとお昼寝の時間があるのです。机の上で突っ伏して寝る時間なのですが、「日本人はどうして昼寝をしないのだ?午後からの時間をシャキッと過ごすには欠かせないじゃないか?」と現地中学校の校長先生に真顔で質問を受けたこともありました。

